

Part B: Vocabulary learning strategies

B.1. Making a list of strategies

目的:

語彙習得に必要な語彙情報を考えるとともに、語彙を覚えるためのストラテジーにはどのようなものがあるか考えさせる。

時間：20分

手順：

- 1 Brain storming about vocabulary knowledge (5分)
 - 1.1. 学生の知らない新出単語で使い方が難しそうなものを英訳とともに黒板に書いて、覚えさせる。ただし漢字の読みはいわない。
例：「飽きる」 to get tired of
 - 1.2. 覚えたら、英文を日本語に翻訳させ、黒板に書かせる。
例： I am tired of hamburgers in MacDonald
→マクドナルドのハンバーガーに飽きています。
I am tired of watching TV
→テレビを見るのに飽きています。。
 - 1.3. 黒板に書かせた和訳は文法や「飽」の漢字などの間違いがあるはずなので、間違いに印をつける。学生をペアにして、なぜ、単語リストだけでは使えるようにならないか考えさせる。
 - 1.4. 単語を覚える時、単語についてどんなことを習わなければならないか（漢字の読み、字形、動詞のタイプ、活用、助詞、書き言葉／話し言葉などの情報）学生に質問し、必要な語彙知識を出させる。
2. Strategy list (15分)
 - 2.1. 学生をペアにし、単語に関する必要情報を覚えるためにどんなことをすればいいか話しあわせ、発表させる。みんなで板書する。
会話例：
A： 単語を覚える時、どんなことをしたらいいと思いますか。
B： そうですね。文を作って覚えたら、使い方が分かると思います。
A： いいアイデアですね。
B： ～さんはどう思いますか。
 - 2.2. SILLやELSIEのSuggestionの日本語版をもとに他にどんなストラテジーが使えるか考えさせ、書かせる。

2.3. さらにペアでどうすれば単語を忘れないようにできるか、単語を忘れないためのストラテジーを考えさせ、各自ストラテジーリストを完成させる。

例：

声をだして、何度も読む。自分の声を聞く。

何度も書く。

声を出して、書く。文字と発音を一緒に覚える。

頭の中でイメージを作る。（例：冬→雪がたくさんふって、周りが白。寒い）

体を動かして覚える。（例：TPR 立つ、歩く）

リズムで覚える。（例：頭、かた、ひざ、足...の歌）

単語を何度も見て、文字を覚える。

単語をグループに分ける。（例：スカート、ズボン、Tシャツ→服の単語）

関係がある単語を書いて、覚える。（例：夏→春、秋、冬、季節、海...）

フラッシュカードを使う。

単語の発音と知っている単語の発音を関連づける。（例：1 itchy、2 knee、3 sun など）

文や会話の中で、新しい単語を使う。

絵や物を使って、覚える。（例：時計を見たら、「時計」など）

B.2. Mechanical learning strategies

目的:

効果的なフラッシュカードの作成のしかた、使い方を導入する。

教材:

フラッシュカード (各学生に五枚)

時間: 20分

手順:

1. Making flash card (15分)

1.1. フラッシュカードの作り方を教える。

カードの表: 単語を左肩に漢字で書き、中央にその単語の使い方が分かる文を書く。

カードの裏: 単語と文の英訳、漢字の読み、必要な名詞のタイプとそれに伴う助詞の情報、活用 (e.g., う-verbs →う、る-verbs →る、する/来る→Irr.、い-adj. →い、な-adj.→な) formalityなどをかく。

1.2. 各学生に五枚のフラッシュカードを渡し、勉強中の課の単語のフラッシュカードを五枚作らせる。

1.3. ペアになる。パートナーのフラッシュカードの正確さをチェックし、そのカードの情報を元に文を作って、パートナーの使い方を確認する。

2. Repeating (5分)

2.1. フラッシュカードを使って単語を覚えるのと、単語リストを見ながら覚えるのとではどちらが効果的か、どうしてそうかグループで考えさせ、発表させる。(順番がかえらえる、覚えていないものだけを復習できるなど)

2.2. 教師が教室でフラッシュカードを使う時、どう使っているか(スピード、カードのまぜ方など)について考えさせる。

2.3. 4人1組のグループになり、みんなのフラッシュカードを一つにまとめ、一人がフラッシュカードをめくり、フラッシュカードで単語を覚える練習をする。

B.3. Classifying and using semantic network

目的:

語彙をカテゴリー化することで覚えやすくするストラテジーの導入と練習。

教材:

単語リストのハンドアウト

時間: 15分

手順:

1. Grouping

- 1.1. 単語のリスト2種を用意し、まず、無作為に単語だけを並べたリストをみせて、一分与えて、覚えさせる。その後、そのテストをする。
- 1.2. 今度はグループに並べられた単語のリストを見せて、同じように覚えさせる。その後、どれだけ覚えられたか再びチェックする。
- 1.3. どちらの方が覚えやすかったか聞く。

2. Associations

2.1 プラン1

- 2.1.1. 動物の単語のリストを渡し、おぼえさせる。
- 2.1.2. 単語リストにある動物の絵がかいてある動物園の絵を渡し、絵を見ながら覚えさせる。
- 2.1.3. どちらが覚えやすかったか聞く。

2.2. プラン2

- 2.2.1. 無作為に単語のみ並べられたリストを用意し、覚えさせる。
- 2.2.2. 単語を関連のある順にならべたリストを見せて、覚えさせる。(例: 冬、雪、白い、紙、手紙...)
- 2.2.3. どちらが覚えやすかったか聞く。

宿題:

家の中の一部屋にあるものか、所持品のの主なものの単語をリストにする。それぞれの単語を紙に書き、その単語に相応するものに張り、毎日見ていって覚えるように指示する。一週間後にその単語がお覚えられているかチェックする。

Handout: Vocabulary list for categorization

Semantically related list

<small>f Hy</small> ねつ	kitchen
<small>S H</small> らなず	refrigerator
<small>d I</small> びたがく～	microwave
<small>g B</small> I	sink
／くき	stove
p A、	kettle
z A M	to boil
g k	pan
h w	to simmer
3 お : 1 く	frying pan
p D	to grill, to roast

Semantically unrelated list

<small>j</small> だ	teeth
C v、	giraffe
<small>f Hy</small> ねつ	kitchen
A m g v	lightning station
<small>z M</small> ま w	to forget
<small>n I</small> ば	insect
h L	rainbow
るM	to speak
2, うく	green pepper
D. o i	fruit

Semantically related list

<small>f Hy</small> ねつ	kitchen
<small>S H</small> らなず	refrigerator
<small>d I</small> びたがく～	microwave
<small>g B</small> I	sink
／くき	stove
p A、	kettle
z A M	to boil
g k	pan
h w	to simmer
3 お : 1 く	frying pan
p D	to grill, to roast

Semantically unrelated list

<small>j</small> だ	teeth
C v、	giraffe
<small>f Hy</small> ねつ	kitchen
A m g v	lightning station
<small>z M</small> ま w	to forget
<small>n I</small> ば	insect
h L	rainbow
るM	to speak
2, うく	green pepper
D. o i	fruit

B.4. . sing imagery, physical response and sensation

目的:

イメージや体を使って単語を覚えるストラテジーの導入と練習。

教材:

フラッシュカード (各学生に五枚)

時間: 15分

手順:

1. 下の単語が並んだ紙切れを学生に渡し、リピートして覚えるように言う。
 - a) 歩く、走る、立つ、座る...
 - b) 夏、暑い、海、泳、冬、寒い、雪、白い..
 - c) Tシャツ、ズボン、スカート、めがね、時計...
 - d) 一日、二日、三日、四日、五日...
2. それぞれの単語を覚える時、体を使って覚えと覚えやすいことがあるということを指摘し、
 - a)、b)、c)、d)について何をしたら覚えやすくなるか考えさせる。
 - a) 体を動かす。
 - b) 頭でイメージをする
 - c) 指でさす
 - d) リズムを使う
3. 同じ単語リストを使って、実際に体や、イメージや、リズムを使いながら覚える練習をさせる。他の単語でも練習。
4. TPRを使って、下のような新出単語の紹介。
座る立つ、歩く、走る、手をふる、足を上げる、足を下げる、首を回す、うでを組む、うでをかく、手をつまむ、肩をたたく、肩ををなでる、あくびをする、くしみをする
5. 練習が終わったら、本番のゲーム。間違った人はす。ゲームオーバー。二回。らいする。

宿題:

- . 学生にイメージや体を使って覚えられる単語のリストを作成させ、面白く覚えられるゲームかアクティビティーを作らせてくる。

B.5.. sing content to infer vocabulary

目的:

効果的なフラッシュカードの作成のしかた、使い方を導入する。

教材:

空欄入りの文のリストと空欄に新出単語が書いてある文のリストのハンドアウト

時間: 20分

手順:

1. 空欄入りの文のリストのハンドアウトを配布し、ペアで、文を音読させる。
2. ペアで空欄にどんな単語が入るか考えさせる。知らない単語の場合は英語か他の言い方を考えさせる。
3. 空欄の単語が書いてあるハンドアウトのリストをペアで音読。単語の意味を辞書で引かせる。一番多く正確に単語の意味を推測したペアが勝ち。
4. 下の文を使って、グループで意味のを考えさせる。今度は単語の意味を日本語で推測して、説明させる。
 - 1) 山田さんは子供が二人いるので、毎日育児が大変だそうです。
 - 2) 私の家では母が家事をしています。父はそうじゃせんたくはしないし、ごはんも作りません。
 - 3) アメリカは今景気がいいそうです。仕事は見つけやすいし、ドルは高いです。
 - 4) アメリカの企業は実力社会だと思います。わかい人も仕事がよくできれば、課長になれるから。
 - 5) 最近は男女差別が少なくなってきましたが、まだ女性が男性と同じように働くのは難しいと思います。
 - 6) ビートルズは昔も今も人気があります。
 - 7) 私は仕事をしているので、主人と家事を分担しています。例えば、私がいつも料理をしますが、主人はその後、おさらを洗います。そうじは週末二人でしています。
5. 各グループに推測した単語の説明をさせる。一番正しいと思われるものとみんなで考えさせる。正解を確認する。

Handout: . sing Conte. t

. - 。 えかーh めT ち(むのo げにo . g Aa T Au (e c o _____)

0 - 5 i はi たj べ^PB そDc (ぼざo (い,) o t Dd C w i d (
 づi たh e c o _____ B 5 w)

1 - Hi たじEB I c . w t) _____)

2 - ふみ^{v r . BD}h やこI c . T ち(よでe びるd るI T せj . b o
 げB _____ g a T)

3 - ふみぜi (2 ,) i ち(m , g i どh もa Tu (_____
 けo す: g Dg a T)

4 - ふみh j が (→おくd) 「あ 5 Gw _____ B g .)

. - 。 えかーh めT ち(むのo げにo . g Aa T Au (e c o ^{HHy I R} てぞAa T)

0 - 5 i はi たj べ^PB そDc (ぼざo (い,) o t Dd C w i d (
 づi たh e c o ^{h . C} とさ B 5 w)

1 - Hi たじEB I c . w t) Az . R . h)

2 - ふみ^{v r . BD}h やこI c . T ち(よでe びるd るI T せj . b o
 げB ^H りI D g a T)

3 - ふみぜi (2 ,) i ち(m , g i どh もa Tu (^{C , v s .} しひ c
 けo す: g Dg a T)

4 - ふみh j が (→おくd) 「あ 5 Gw ^{I r . A .} つご B g .)

B... Retention strategies

目的:

単語を忘れないためのストラテジーの練習。

教材:

忘れていだろうと思われる単語のリスト

時間: 15分

手順:

1. あるトピックに関して、良く覚えている単語をチェーンドリルでたくさん言わせ、ある程度単語が出てこなくなるまで言わせる。
例: 大学
図書館、学生、先生、本、教室、教科書など
2. 各学生に出て来た単語の中で覚えていないものがあるかどうか聞く。
3. 次に同じトピックで覚えていないだろうとおもわれる既習単語を書いて、覚えているかどうか確認。
4. ペアになり、良く覚えている単語とあまりおぼえていない単語のリストを作り、どうして一方のリストは良く覚えていて、どうしてもう一方はあまり覚えていないのか考えさせる（インプットにでてくる頻度、使用頻度、具体性など）
5. 覚えていない単語を覚えやすくする方法を考えさせ、クラスで発表させる。